

事業系ごみ組成分析結果

I 組成分析の目的

事業系一般廃棄物については、平成23年3月策定の「江別市一般廃棄物処理基本計画」に基づき、施策1-8「事業系食品残渣再利用の調査研究」及び施策2-5「事業系ごみの適正処理」に取り組んできたところであるが、平成27年度の基本計画中間見直しに向けて、施策の検証及び今後の施策の立案に活用するため実施した。

II 実施内容

市内事業所より排出された事業系一般廃棄物を、1検体200kg程度として採取し、「可燃ごみ」(燃やせるごみ)、「不燃ごみ」(燃やせないごみ)別に組成を分析した。

(1) 調査対象検体

- | | | |
|--------|------------------|-----|
| ① 可燃ごみ | (許可業者車両採取分) | 5検体 |
| ② 可燃ごみ | (食品取扱事業所より直接採取分) | 3検体 |
| ③ 不燃ごみ | (許可業者車両採取分) | 4検体 |

(2) 検体採取方法

江別市一般廃棄物収集運搬業許可業者の車両により、環境クリーンセンターへ搬入された「可燃ごみ」及び「不燃ごみ」を採取した。

食品取扱事業所より排出された「可燃ごみ」は、事業所のごみ集積所より直接採取した。

(3) 検体展開・仕分け

許可業者車両採取による「可燃ごみ」検体は、環境クリーンセンターホッパー階で展開・仕分けを行った。「不燃ごみ」及び食品取扱事業所より直接採取した「可燃ごみ」は、環境室ストックヤード内で展開・仕分けを行った。

(4) 分析方法

許可業者車両採取分検体にあっては、多様な事業所を巡回収集しており、検体ごとの特徴はないことから、「可燃ごみ」、「不燃ごみ」別にそれぞれの検体を合計して分析する。

食品取扱事業所より排出された「可燃ごみ」は、業態別の特徴を分析するため、業態別の検体により分析する。

(5) 実施期間 平成26年 9月 3日 ~ 平成26年 9月16日

(6) 分析測定業者 株式会社 環境総合科学

1 可燃ごみ組成分析

(1) 許可業者車両採取分

① 概要

江別市一般廃棄物収集運搬業許可業者5社の車両により環境クリーンセンターへ搬入された市内事業所の可燃ごみの中から、許可業者1社につき1検体(約200kg)を採取し、全体の組成を分析した。

② 組成

可燃・不燃別区分及び資源化可能・不可別区分による組成は、次のとおりとなった。

処理区分	資源化区分	組成		品目
		平成26年度	平成21年度	
可燃	資源化できるもの	21%	14%	紙(15%)、布(5%)、プラスチック(PET製品・白トレイ)(1%)
	資源化できないもの	21%	19%	食品残渣
		18%	39%	紙くず
		32%	20%	軟質プラスチック
		2%	6%	布、草・木、その他
小計	94%	98%		
不燃	資源化できるもの	1%	1%	金属、ガラス、危険ごみ
	資源化できないもの	5%	1%	木、金属、ガラス、硬質プラスチック、その他
	小計	6%	2%	
合計		100%	100%	

(2) 食品取扱事業所直接採取分

① 概要

市内食品取扱事業所の3業態(スーパーマーケット、コンビニエンスストア、飲食店)より1検体(約200kg)ずつ可燃ごみを直接採取し、業態別に組成を分析し比較した。

食品取扱事業所により排出される可燃ごみの組成の変化については、スーパーマーケットより採取した検体を前回組成と比較して分析し、業態間の排出傾向については、今回より調査を行うコンビニエンスストアと飲食店より採取した検体と比較することで分析する。

② 組成(業態別可燃ごみ検体)

食品取扱事業所3業態より採取した可燃ごみ検体の組成は、次のとおりとなった。

処理区分	資源化区分	組成			品目
		スーパー	コンビニ	飲食店	
可燃	資源化できるもの	4%	8%	6%	紙、布、プラスチック(PET製品・白トレイ)
	資源化できないもの	61%	61%	63%	食品残渣
		7%	6%	17%	紙くず
		18%	22%	13%	軟質プラスチック
		10%	2%	1%	布、草・木、その他
小計	100%	99%	100%		
不燃	資源化できるもの	0%	1%	0%	金属、ガラス、危険ごみ
	資源化できないもの	0%	0%	0%	木、金属、ガラス、硬質プラスチック、その他
	小計	0%	1%	0%	
合計		100%	100%	100%	

③ 組成(スーパーマーケット可燃ごみ検体)

スーパーマーケットより採取した可燃ごみ検体の組成を、前回と比較した。

処理区分	資源化区分	組 成		品 目
		平成26年度	平成21年度	
可燃	資源化できるもの	4%	1%	紙、布、プラスチック(PET製品・白トレイ)
	資源化できないもの	61%	66%	食品残渣
		7%	13%	紙くず
		18%	14%	軟質プラスチック
		10%	4%	布、草・木、その他
小計	100%	98%		
不燃	資源化できるもの	0%	1%	金属、ガラス、危険ごみ
	資源化できないもの	0%	1%	木、金属、ガラス、硬質プラスチック、その他
	小計	0%	2%	
合 計		100%	100%	

2 不燃ごみ組成分析

(1) 許可業者車両採取分

① 概要

江別市一般廃棄物収集運搬業許可業者4社の車両により環境クリーンセンターへ搬入された市内事業所の不燃ごみの中から、許可業者1社につき1検体(約200kg)を採取し、全体の組成を分析した。

② 組成

可燃・不燃別区分及び資源化可能・不可別区分による組成は、次のとおりとなった。

処理区分	資源化区分	組 成		品 目
		平成26年度	平成21年度	
不燃	資源化できるもの	22%	12%	金属(4%)、ガラスびん(18%)、危険ごみ(1%未満)
	資源化できないもの	2%	3%	硬質プラスチック
		12%	30%	草・木
		44%	43%	木、金属、ガラス、複合製品、その他
		小計	80%	88%
可燃	資源化できるもの	8%	4%	紙、布、プラスチック(PET製品・白トレイ)
	資源化できないもの	12%	8%	食品残渣、軟質プラスチック、木類、その他
	小計	20%	12%	
合 計		100%	100%	